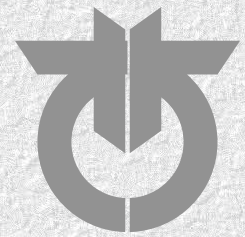


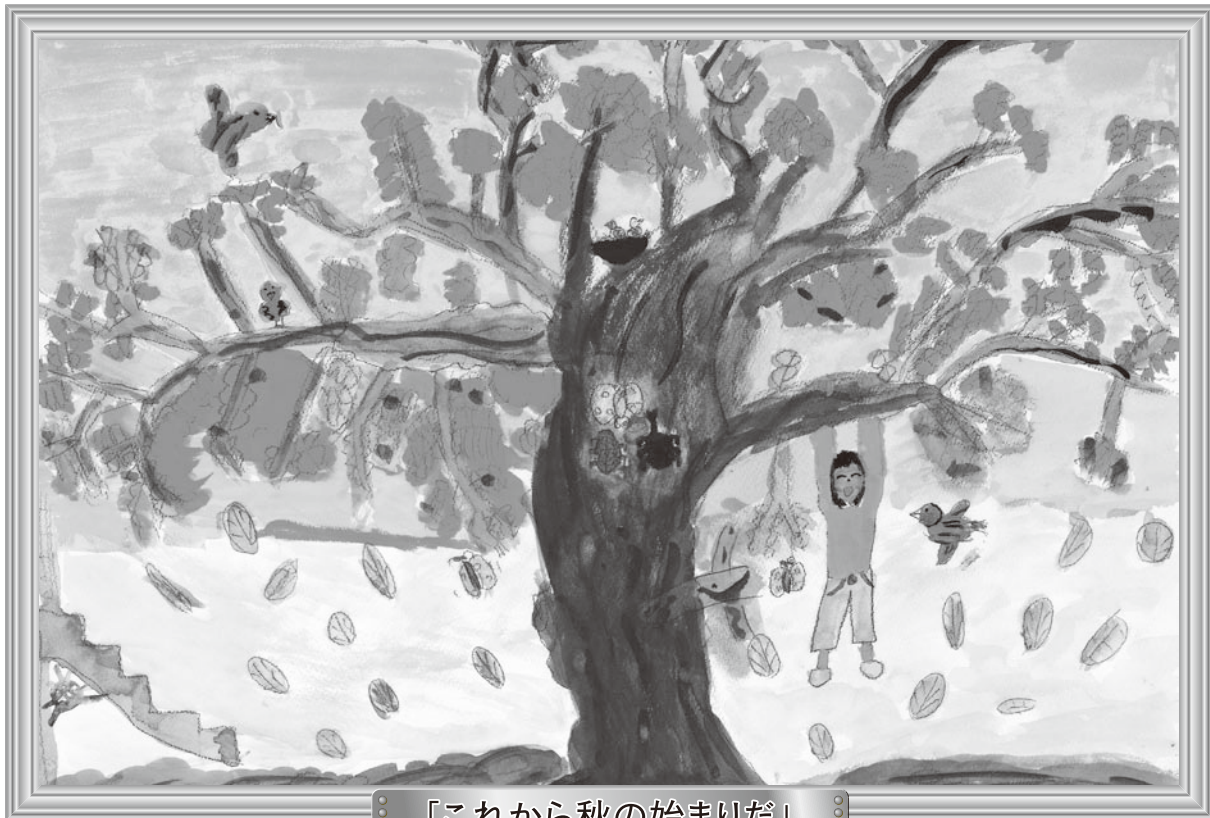
人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第7号



「これから秋の始まりだ」

桶川東小学校 4年 須田奏絵

人権標語

いわないよ じぶんがいわれて いやなこと

●桶川西小1年 寺門流輝●

ごめんねは 仲よくなれる あい言葉

●桶川東小4年 竹原翔太●

あいさつは 笑顔になれる おまじない

●桶川小5年 富田麗奈●

気づいてね 人の心の 非常ベル

●桶川西中1年 原島明日香●

ありがとう あなたの一言 笑顔の種

●桶川中2年 町田貴香●

いじめは しないさせない 見すごさない

●加納中3年 森田貴太●



『がまくとかえるくん』でやさしさを考える

桶川東小学校

本校では、子どもたちの心を育てるために、「人権コーナー」がまくとかえるくん』を設置しました。これは、全校児童に人に対する思いやりや、がんばる心をもってもらおうとする考えからです。

このコーナーは、「今月のおもしろい」と「やさしさみつけた」の二つからできています。「今月のおもしろい」では、その月にみんなに知らせて人権に関する話題を載せます。人権作文や人権標語、児童に話してあげたい、ちょっとした話などを、子どもたちの目にとまるように、季節を考えて工夫して掲示をしています。十月に掲示した少年野球を扱った『チームワーク』という話の時には、六年生がコー

ナーの前に集まり、話し合っていました。「やさしさみつけた」では、がまくとかえるくんポストに、投書してもらったお手紙を中心に掲示します。友だちにしてもらってうれしかったこと、先生にほめられたこと、良いことをしたら気持ちがよくなったことなどが書かれた、低学年から高学年までの児童からのおたよりを紹介しています。市内体育大会後には、『みんなと力を合わせてがんばることの大切さ』を六年生が、おたよりしてくれました。

この人権コーナーで、日常の何気ない生活の中、やさしさや勇気をみつめ直してほしいと思っています。これからも心を育てる場を増やしていきたいと思えます。



心の交流を図る「遊ぼう会」

加納小学校

本校では、心の交流を図る教育活動の一つとして、「遊ぼう会」を実施しています。これは、各クラスで考え企画した遊び（出し物）を通して、クラス、学年をこえた児童同士の交流と、招待したお年寄りの方々と児童との交流をねらいとした行事です。一年生は、祖父母の方といっしょに各クラスの出し物に参加して回ります。二年生から六年生までのクラスは、お年寄りの方が楽しく参加できるように、遊びの内容に工夫を凝らし、それぞれの場所で、児童は遊びの説明をするともに、お年寄りの方々と会話することを重視し、おもてなしを学びます。いつの間

にか、遊びに夢中になっているお年寄りの方の姿が多く見うけられます。参加されたお年寄りの方々からは、「だれもが遊ぶことができ、すごく楽しませてもらった。」「ふだん見られない孫の姿に、孫の成長を感じ、嬉しく思った。」などの感想をいただいています。

お年寄りの方々には、本校を卒業された方も多く、「遊ぼう会」を通しての児童との交流は、地域との心の交流にも広がっていきたく思います。



本校では、「人権を大切に、みんながとどろびる学校づくり」を目指しています。その中の一つに、自浄力、自治力を育成するための生徒会活動があります。その中から二つの実践と成果を紹介します。

一 「心に残った言葉」カレンダー

「思いやりの心」を育むため、生徒一人一人に親や友だち、お世話になった方々から贈られて感動した言葉と、その思い出を作文に書いてもらいました。そして、その中から三十一点を選考し、日めくりカレンダーとしてまとめ、各教室に掲示しました。毎朝カレンダーをめくると、思い出とともに綴られた温かい言葉の数々が宝物のように輝き、教室に爽やかな風を運んでいます。

二 文化祭の実践

文化祭では、毎年、地域の方々に講師に招き

本校では、学校教育目標「明るいあいさつ、輝くひとみ、みなぎる力」を受け、人権教育目標「①差別や偏見をなくし、自他の人格を尊重する能力・態度・実践力を養う。②発達段階に即して、人権問題に関する正しい理解と認識を育てる。」を掲げ、全ての教育活動を通して人権教育を進めています。その中から主な取組を紹介します。

一 全校での取組

毎年、人権週間を設け、人権作文や人権標語の作成に全生徒が取り組んでいます。また、これに合わせて図書室に人権コーナーを設けて、人権について幅広く考えられるよう、さまざまな分野の本を紹介しています。

二 学年毎の取組

第一学年では、社会生活に必要な資質や能力（ソーシャルスキル）を身に付けるため、ロールプレイを通し、気持ちのよい挨拶等を勉強し



「生活体験講座」を実施しています。地域の方々と生徒が体験を通して心を交流させ、大変好評です。

また、今年も三年生が『二つの名前』（志子田宣生作）を上演しました。この劇は、民族差別の中で強く生きる少女と、その少女との交流を通して差別の過ちに気づき、ともに生きることを大切にする友の姿を描いています。

生徒の熱演で全校に感動の輪が広がりました。



一人一人に思いやりの心を

桶川東中学校



みんながともにのびる学校づくり

加納中学校



「桶川高校の人権教育」

埼玉県立桶川高等学校

現在、桶川高校では人権教育推進委員会（各学年二名選出、計八名）が中心となって人権教育の取組を行っています。従って人権教育推進委員会がきちんと機能しているかどうか、本校の人権教育の内容に大きな影響を与えることになると思います。数年前までは委員がめまぐるしく替わっていたのですが、最近では、二年、三年と続けて委員をする人が増え、推進委員会も定期的に行けるようになりました。

この委員会の主な仕事は一学期に実施される職員研修会、二学期に実施される生徒対象の人権教育（学習）の企画立案と、校外で実施

紹介して、全校児童の人権意識の高揚を図っています。

二つ目は、人権標語の取組です。「二人一人を大切にするための合言葉」としての人権標語作り、たくさん児童が取り組みました。出来上がった作品は全て掲示し、鑑賞し合いました。

気持ちや願いを作品に込めるだけでなく、人権の大切さを自らの行動で示すことのできる児童に育てていきたいと考えています。

本校の児童の心にも人権の根がはり、大きな思いやりの木へと成長できるように全職員が、一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



育てよう!人権の心、育て!人権の木

桶川小学校

桶川小学校として三年目を迎えた本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」を目標に掲げ、人権教育活動を行っています。その中から、次の二つの取組を紹介します。

一つ目は、人権作文の取組です。人権に関する説明や人権作文集などを参考にしながら、二年以上の全児童が作文に取り組みました。自分自身を振り返り、また家族や回りの人たちにも目を向けて、一人一人がかげがえのない大切な「オンリーワン」であるという思いがこめられた作文が、たくさんできました。特に優れている作文は、校内放送で

次は生徒対象の人権教育（学習）の取組について簡単に述べてみたいと思います。推進委員会でも内容や日時などを検討し、昨年度は部落差別の問題を扱いました。各ホームルームでの教員による事前学習と体育館での講演、そして、感想文の作成という内容で三時間かけて実施しました。講師は首都大学の本田豊さんをお願いしました。事前学習資料も委員が分担して作成にあたり、苦勞して作り上げました。この過程こそが教職員の人権教育に関する力量を高める上で欠かせないものだと考えています。

生徒の真剣な眼差しがとても印象的な講演会でした。



桶川西中学校区人権教育総合推進地域事業

研究発表会を開催しました

桶川西中学校区の四校（川田谷小学校・桶川西小学校・日出谷小学校・桶川西中学校）では、平成十九年度から三年間、文部科学省より人権教育総合推進地域事業の指定を受け、「あいさついっぱい、笑顔いっぱい」の地域づくり人権を尊重する心豊かな人づくりの推進」を研究主題にし、地域全体で基本的人権尊重の精神を高め、一人一人を大切にす



教育と、あいさつを中心にした取組を行ってきました。

平成二十一年十一月二十五日には、三年間の成果を報告する研究発表会を開催しました。川田谷小学校と桶川西中学校で道徳などの授業公開を行った後、桶川西中学校体育館で、研究発表と講演会を行いました。また、アトラクションとして、川田谷小学校の児童と桶川西中学校の生徒も出演し、三田原のささら獅子舞が披露されました。華やかな衣装と堂々とした舞に、「中学生が踊っているとは思えない」

心にした、学校と地域が連携した取組を具体的に紹介しました。そして、

○「人権の第一歩はあいさつ」とし、あいさつを取組の中心にしたことで、児童・生徒にも分かりやすく、あいさつを通して小中学校および、地域との連携を図ることができた。

○継続的にあいさつ運動を実施することで、元気がよくあいさつを交わす児童・生徒が増えてきた。

○CAPワークショップを実施することにより、児童・生徒は実際の場面を想定した体験プログラムを通して、安心、自信、自由などの基本的人権を理解することができた。

講演会では、聖徳大学大学院教授 福田弘先生による「今後の学校における人権教育の在り方」と題した講演をしていただき、人権感覚育成の大切さや、自分に対する肯定的態度の育成の大切さをお話ししていただきました。

当日は、市内外の学校職員をはじめ、地域の方や保護者、遠く県外から来られた方もおり、二〇〇名を超える参加者を得て盛大に行われました。

など、驚きの声がかれました。教育委員会と各校の発表では、あいさつを中



